

西ふ頭を建設。ふ頭の建設には北海道の岸壁で初めてケーソンを使用。ケーソンは築港事務所の施設を借り上げて製作した。また、後のふ頭拡張工事では、北海道初となるプレパックドコンクリート工法による鉄筋コンクリート構造が採用された。

- 増大する石炭積出量に対応すべく、1934(昭和 9)年に国鉄ふ頭、1940(昭和 15)年に北荷ふ頭が建設された。その後、エネルギー政策の転換等により石炭の取扱がなくなると、国鉄ふ頭を再編しフェリーふ

頭に転用。再編の際に不要となったケーソンは外防波堤の本体に流用された。また、フェリーふ頭の一部の岸壁は、国鉄ふ頭時代の本体はそのままに、耐震強化改良が施された。

- 1959(昭和 34)年、東北電力が自社の火力発電所向けに道内炭を自社調達すべく、北日本ふ頭を建設。本体は、本輪西ふ頭の拡張工事と同様にプレパックドコンクリート工法による鉄筋コンクリート構造が採用された。(現在は室蘭市が管理)



室蘭港港湾施設群の概要(室蘭開発建設部提供)

令和 4 年度 港湾空港関係功労者表彰及び海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰を行いました

北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課

北海道開発局では、様々な団体と連携した港湾空港整備事業の効果的な推進を目的として、「北海道開発局港湾空港関係功労者表彰」及び「海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰」を実施しています。

今年度の「港湾空港関係功労者表彰」は、小針土建(株)の小針武志社長に、また、「海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰」は、(株)森川組及び北海電気工事(株)稚内営業所に決定し、8月2日(火)表彰式が執り行われました。

表彰式では、北海道開発局鈴木港湾空港部長から表彰状が授与され、その功績を讃えるとともに、改めて感謝の意を表する挨拶がありました。

各受賞者の皆様からは、これまでの港湾整備事業に係る企業活動や清掃活動を振り返り、東日本震災後の

清掃活動など印象深かった思い出を話されるとともに関係者の方々に対する謝辞等が述べられました。



表彰を受賞された方々

(前列右から森川組様、鈴木港湾空港部長、小針武志様、北海電気工事(株)稚内営業所様)